

日常生活での手洗い回数は1日10回では不十分

—COVID-19 アウトブレイク時における一般市民の予防行動に関する研究結果⑥—

【概要】

- 2020年6月23日に日本人男女2,149人を対象にインターネット調査を実施しました。
- 日常生活の中で手指衛生が必要な5つのタイミング（外出後、トイレ後、外にあるものに触った後、食前、咳やくしゃみ、鼻をかんだ後）でいつも手指衛生を実施していると回答した人は21.1%のみでした。
- ROC曲線を用いた解析によると、5つのタイミングすべてで手指衛生を実施していると回答した人は、手指衛生の回数に関する質問に「1日11回以上」と回答していました。

東京医科大学公衆衛生学分野の町田征己らは、関東地方在住の20-79歳の男女2,149人を対象に、新型コロナウイルス感染症アウトブレイク時における一般市民の予防に関する考えと行動に関するインターネット調査を2020年6月23日に実施しました。その研究成果が2020年12月28日に[国際医学雑誌 Japanese Journal of Infectious Diseases](#) で発表されました。

【研究内容の要約】

2020年6月23日に、関東地方在住の20歳から79歳の男女2,149人に予防に関する意識や実施状況に関するアンケート調査を行いました。この中で、日常生活の中で手指衛生が必要な5つのタイミング（外出後、トイレ後、外にあるものに触った後、食前、咳やくしゃみ、鼻をかんだ後）での手指衛生の実施頻度を4段階（いつも、時々、たまに、全く）で回答してもらいました。またこの質問とは別に、1日あたりの流水を用いた手指衛生の回数と、アルコール系手指消毒剤を用いた手指衛生の回数を回答してもらいました。

調査の結果、5つのタイミングでいつも手指衛生を実施していると回答した人の割合はそれぞれ30.2%から76.4%で、最も低いのは「咳やくしゃみ、鼻をかんだ後」でした。5つのタイミングすべてでいつも手指衛生を実施している人は21.1%のみでした。また、一日あたりの流水およびアルコール系手指消毒剤を用いた手指衛生の平均実施回数は10.2回でした。ROC曲線を用いた解析では、1日11回以上の手指衛生を行っているとは回答することが、5つのタイミングすべてでいつも手指衛生を実施しているかどうかを判断する一つの目安となることが明らかになりました。

手指衛生は適切なタイミング・方法でいつも実施することが大切です。今回の調査で5つのタイミングのさらなる啓発が求められことが明らかになりました。さらに、手指衛生の頻度を尋ねたときに、1日10回以下と回答する者は、手指衛生の実施が不十分であり啓発の必要な対象であることが分かりました。実際に必要な手指衛生の頻度は、各人の生活習慣に

よって異なりますが、1日11回以上は簡便で分かりやすい調査を実施する際の指標であり、「手指衛生は1日10回では不十分」といった具合に啓発に使えるメッセージになりうると考えています。

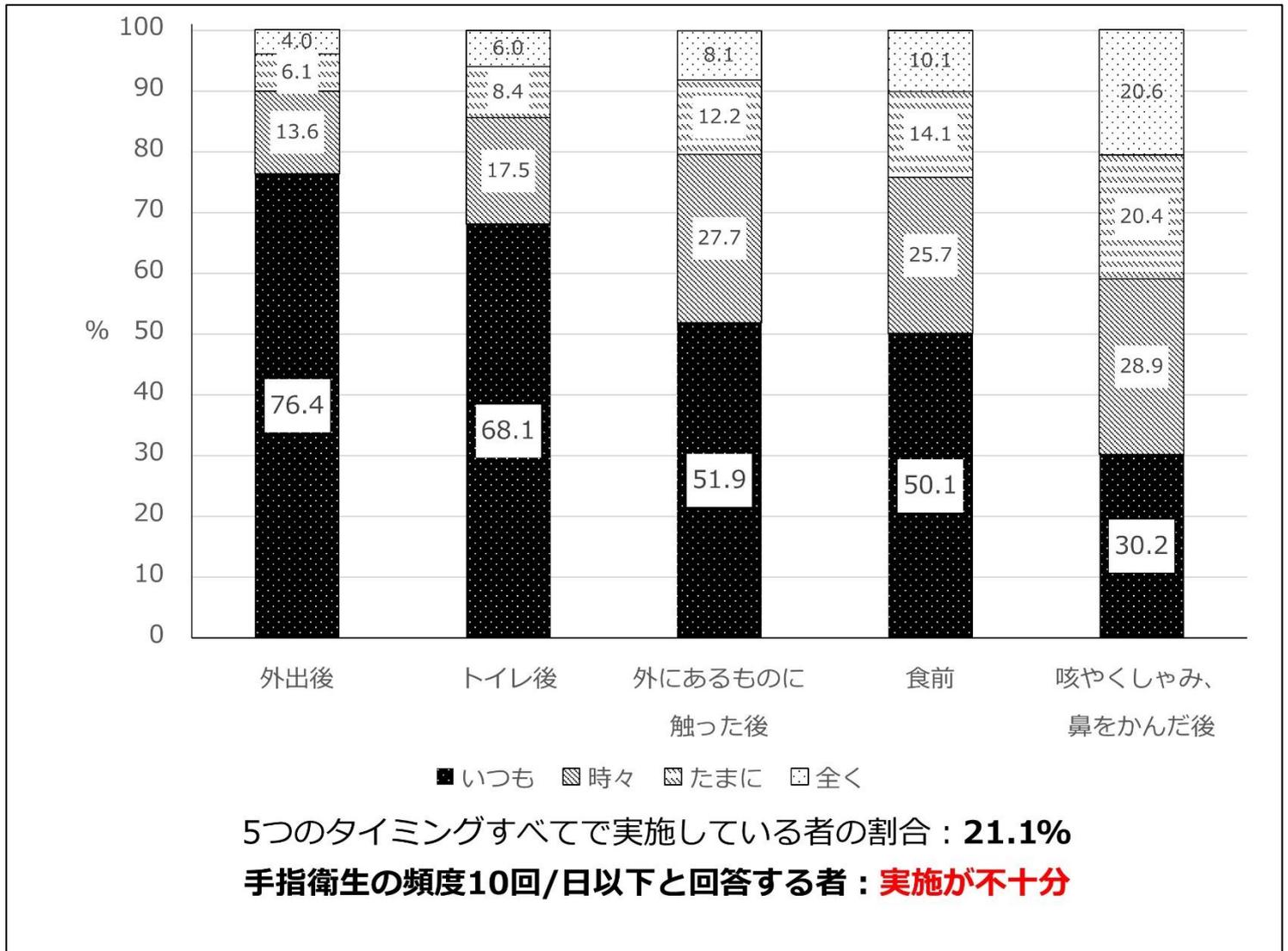


図. 手指衛生の実施頻度と目安となる回数

論文情報

掲載紙： Japanese Journal of Infectious Diseases

論文名： How frequently do ordinary citizens practice hand hygiene at appropriate moments during the COVID-19 pandemic in Japan

著者名： 町田 征己、中村 造、齋藤 玲子、中谷 友樹、埴淵 知哉、高宮 朋子、小田切 優子、福島 教照、菊池 宏幸、天笠 志保、小島 多香子、渡邊 秀裕、井上 茂

DOI：未（査読済み）

【問い合わせ先】

東京医科大学 公衆衛生学分野 氏名：町田 征己、井上 茂

E-mail: TMUPHIC.2020@gmail.com

その他の新型コロナウイルス感染症に関する当分野の研究結果

研究結果①：感染予防行動のうち「目鼻口に触らない」の実施率が最も低い

研究結果②：予防行動に関する行動変容は男性と低所得者で少ない

研究結果③：COVID-19 アウトブレイク下において 風邪症状のある労働者の多くが十分に自主隔離できていない

研究結果④：COVID-19 パンデミック下においても マスクを正しく使用している者は少ない ~マスクマネジメントに関するさらなる啓発が求められている~

研究結果⑤：新型コロナウイルスの流行下で一般市民のメンタルヘルスは悪化した ~悪化したのは特に低所得者、呼吸器疾患を抱える者だった~